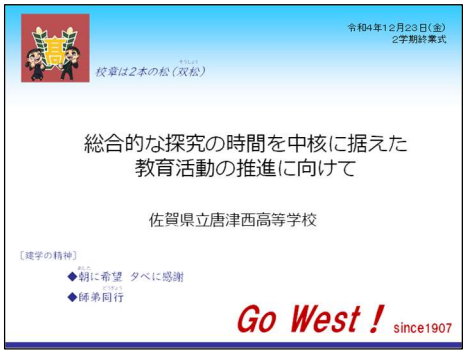
令和4年12月23日（金）

第2学期終業式訓話

佐賀県立唐津西高等学校長　下村　昌弘



全校の皆さん、おはようございます。昨夜から雪と風が大変でしたね。しかし今日は令和4年度第2学期終業式、その大事な節目をこの学校でみなさんと迎えられることをうれしく思っています。

さて、2学期はいかがでしたでしょうか。あっという間だったと思います。

文化祭に始まった2学期でしたが、秋にかけて勉強も本格化しました。

1年生にとっては高校生活にも慣れ、2学期は自分のペースで生活ができ始めたのではないでしょうか。

2年生の皆さん、部活動の新人戦では主力として活躍できたでしょうか。11月には思い出に残る修学旅行もありました。

3年生は、9月以降、受験勉強が本格化しました。土日のたびに模擬試験、大学入試や就職試験の本番を経験した人もたくさんいます。

さて、そうしたそれぞれの2学期でしたが、トライ・アンド・エラー、挑戦する気持ちを大事にこれからも進んでください。

ところで、今学期もいろいろな人からいろいろな話を聞いてきたと思いますが、今学期を振り返ってどんな人のどんな話が印象に残っていますか。

学校の先生方はもとより、講演に来ていただいた外部講師の先生からもいい話をたくさん聞きました。そのような中、誰のどんな話が心に残っているでしょう。

私が2学期に出会った人で一番心に残っている人のことは今日の話の最後にしたいと思います。

さて、今年4月、私は本校に赴任しましたが、「Go West!」、「西高へ行こう」「イケイケ西高」をスローガンに、皆さんの主体的・自主的な活動を促してきました。

それに呼応するような形で、画面のタイトルにも掲げているように「総合的な探究の時間を中核に据えた」学校づくりを目指しているところです。

「探究」とは、自分の興味・関心を深掘りすることです。それには主体性・自主性が必要です。

皆さんは総合的な探究の時間やLHR、部活動や生徒会活動、ボランティア活動、あるいはいろいろな校外イベントに積極的に参加し、授業だけでは学ぶことができないことをたくさん体験してきました。

そこで、大切なことは「体験を体験に終わらせない」「体験を学びの形に整える」ということです。これを私

は「深掘り」と呼びます。このことが大学入試など進路獲得を可能にするだけでなく、卒業後の自分の生き方、その基盤となります。私は西高で学ぶ皆さんには、そういう「深掘り」する力をつけて欲しいと思っています。

そこで、今日は2学期を、そして令和4年を振り返る意味で、一つの物語を紹介したいと思います。
林木林作の『二番目の悪者』という絵本です。
知っている人もいるかもしれません。絵本ですから、もともと子ども向けに書かれたものです。今日は時間が十分にはありませんから、少し読み飛ばしながら、全体の筋を追っていくことにします。ではタイトルにある「二番目の悪者」とはいったい誰なのかを考えながら聴いてください。

昔々、ある国に、「みごとな金色のたてがみをもつライオン」がいました。
この金のライオンはほこらしげに「自分こそ選ばれし者」なのだと自負していました。

二番目の悪者　林木林作 庄野ナホコ絵（小さい書房）

この国の王様はたいそう年老いていました。
そこで、次の王様を国民で決めるようにおふれを出しました。
金のライオンは自分が王様になりたくてしかたがありませんでした。

しかし、街の広場では別のライオンが候補に上がっていました。
「街外れにとっても心の優しいライオンが住んでいるみたいよ」
街の動物たちはうわさしています。

金のライオンはそのうわさが気になって仕方がありません。

そこで金のライオンは街外れまで見に行きました。
この絵は、土にまみれ、ほこりをかぶって作業する別のライオンの姿です。これがうわさの「銀のライオン」です。

銀のライオンは台風で壊れた鳥小屋を直し、木の下に落ちた小鳥のひなを巣に戻してあげていました。

「こんなライオンがいたなんて。」
金のライオンは歯ぎしりして悔しがりました。
「放っておけば銀のライオンが次の王様に選ばれてしまうのでは」
そう思うと気が気ではありません。
「王にふさわしいのはこの私だというのに。何とかしなければ」
そこで金のライオンはどうしたと思いますか？

金のライオンは銀のライオンの悪いうわさ話をまきちらしました。
この絵は、うっかり自分が木に頭をぶつけただけなのに、銀のライオンから殴られたとヒョウに嘘の話をしている場面です。

また別のところでは「銀のライオンはクマと取っ組み合いをしていた」と悪い噂を流します。本当は、谷に落ちそうになっていた熊を銀のライオンが助けてやったのに、です。

来る日も来る日も、金のライオンは銀のライオンの悪い噂を広めて歩きました。はじめは、金のライオンが何を言っても、街の動物たちは誰も信じようとしなかったのですが、、、、。

それなのにどうしたことか、ぽつりぽつりとみんなの話題に上り、静かに噂され始め、やがてじわじわ広まっていったのです。
この絵はリスやウサギ、ネコやキツネが銀のライオンのうわさをし、その悪い噂がだんだん大きく広まっていることを描いています。

この絵は、イヌや小鳥たちが「銀のライオンとトラが殴り合っていた」ということを人から聞いたと話している場面です。

こうやって銀のライオンの悪い噂がどんどん広がり、動物たちが銀のライオンと関わらない方がいいかもと思い始めました。

この噂はメールとなって、シカに届き、リスに転送され、遠くの島に住むペンギンまでに届きました。

そうやって噂はたちまち膨れ上がり、街は銀のライオンの悪い噂でもちきりになりました。

そんな中、フクロウおばさんと小鳥が「ちょっと待って」と叫びました。
「銀のライオンは親切で立派な方だ」「悪い評判は何かの間違いだ」と言いました。
根も葉もないうわさの広がりに、銀のライオンはただ苦笑いしただけで、何も言いませんでした。
誤解はいつか必ず解けると思っていたからです。
一部始終を見ていたのは空に浮かぶ真っ白い雲だけ。
嘘は向こうから巧妙にやってくるが、真実は自ら探し求めなければ見つけられない。
雲はつぶやき流れていった。しかし、その声は誰にも届かなかった。

こうして、とうとう、金のライオンは新しい王様になりました。

しかし、金のライオンは、自分の好き勝手に国を治め、贅沢の限りを尽くし、よその国と戦争を起こし、やがて国は荒れ果ててしまいます。

焼け焦げて煙る大地を前に、皆呆然と立ち尽くした。
ああなんということだ。
何もかも失ってしまった。もうおしまいだ。
なんてひどい王様だろう。
もし銀のライオンが王様だったらこんなことにはならなかったのよ。
そうさ、彼こそがふさわしかったのに。

「ぼくはただ銀のライオンに気を付けてって聞いたから仲間に教えただけだよ」
「わたしだって何となく心配だったから、家族に知らせただけだわ」
「おいらだってちょっと気になってメールを転送しただけさ」
金のライオンの他には悪意のあるものなど誰一人としていなかった。

みんな嘆いた。
「どうしてこの国はこんなことになってしまったのだろう」

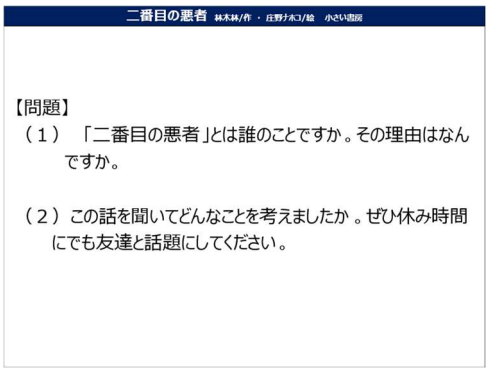
野原の隅で野ネズミが静かに口を開いた。
「僕は聞いた話を友達に教えてあげただけなんだよな、でも、自分の目で何か一つでもたしかめたっけ」
丘の向こうから時折ゆらめく炎が上がる。

本当に金のライオンだけが悪かったのか。

はるか地上を過行く雲は今日もつぶやく。
「誰かにとって都合の良い嘘が世界を変えてしまうことさえある」
だからこそ何度でも確かめよう。
あの高くそびえる山は本当に山なのか。
この川は間違った方向へ流れていないか。
皆が歩いていく道の果てには何が待っているのか。
雲の切れ間から澄んだ光が地上を照らした。

しかし荒れ果てた台地にはもう誰の姿もなかった。

話しはこれで終わりです。さて、、、、タイトルは『二番目の悪者』でした。



では、一番悪いのは誰？、、、そうですね、悪意のある「金のライオン」でしょうか。でも、金のライオンは極端に誇張されているだけで、実は私たち一人一人の心の中に住み着いている闇の部分かもしれません。

では、問題の「二番目の悪者」とは誰でしょう。あなたは誰だと思いますか？

悪い噂を流した街の動物たち、リスやウサギやネコやキツネたちでしょうか。

うわさ話をメールで拡散したシカやリスやペンギンたちはどうでしょうか。

自分は違うという人はいませんか？

フクロウおばさんや小鳥はどうでしょう。間違いをただそうとしましたが、嘘をひっくり返すまでには至りませんでしたね。

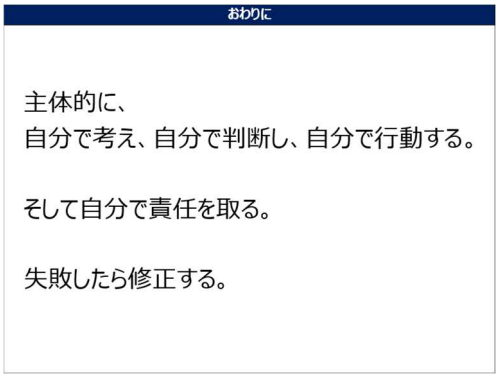
たしかに、噂を実際には確かめず、ひろめた多くの動物たちが二番目の悪者かもしれませんね。

他に考えはありませんか？

そう、だまってスルーした銀のライオンはどうでしょう。銀のライオンは、毅然として自分の不利益に立ち向かうべきではなかったでしょうか。

この絵本にはいくつかの問題が仕込まれています。

為政者・政治の問題。大衆の問題。先日、県知事選がありましたね。投票権を持っている人、どうでしたか。それから誹謗中傷、人権の問題。メールの安易な転送、情報モラルの問題。などなどです。



一年の終わりにあたり、私が皆さんに言いたいことは、あなたは、この一年間、どれだけジブンゴトとしてとらえなければならないことを、いいかげんに、ないがしろに、無駄にしてきたか、よく振り返ってみなさい、ということです。ちょっとだけ勇気を出して発言すればよかった機会をどれくらいつぶしてきましたか。あの時、もう少し頑張ったらよかったのに、という機会がいくつもあったのではないですか。

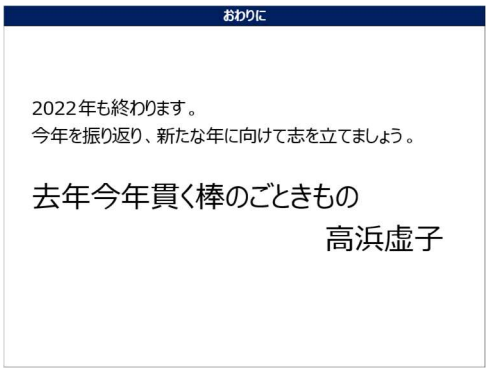
授業で、講演会で、部活動で、友達との対話で、あらゆる日常生活の場面で、勇気を出して発言する、もう少し頑張る、そういうチャンスをどれだけ無駄にしてきたか、よく反省してほしいと思います。それはちょっと勇気を出せば自分を変える、自分を高めるチャンスだったはずです。

冒頭、今年であった人で印象に残っている人は誰ですかと聞きました。

私にとって、その人は地球市民の会の古泉志保さんです。1年生しかわからない人なので申し訳ないのですが、総合的な探究の時間にSDGsの基調講演をしていただきました。その方がおっしゃったのです。「今言わないでどうする」「今踏み出さないでどうする」「勇気をもって前に進め」と。それまで消極的だった古泉さんを世界に旅立出せた先生からの一言だったそうです。

どうか、みなさん、これからはもっと主体的自主的に、自分で判断し、自分で行動し、自分で責任を取るという経験をたくさんしてください。

失敗してもいいじゃないですか。これからの世の中は正解のない時代と言われています。間違ったら、修正すればいい。その繰り返しがこれからの時代を生き抜く「考える力・生きる力」となっていきます。



去年今年貫く棒のごときもの　高浜虚子。

「去年」と言い、「今年」と言い、人は時間に区切りをつけようとします。しかし時間は、一本の棒で貫かれたようなもので、断とうとしても断つことはできません。高浜虚子は、ゆく年くる年を、棒のごとき太い信念・意志で貫けと言っています。

決意新たに、1月10日、始業式で会いましょう。それまでに太い信念を言葉にしておいてください。
では皆さん、よいお年を。